

ガザ飢餓危機

国連機関推計 58万人最悪レベル



難民キャンプで煮炊きをする
パレスチナ避難民=15日、ガ
ザ地区ラファ（ロイター）

飢餓の深刻さを分析する国連の国連機関が21日、パレチナ自治区方針についての報告書を発表しました。230万人の全住民が飢餓に直面し、イスラエルの軍事作戦が続く中で日々に飢餓（きさく）のリスクが高まっているとして、戦闘の中止を含む「極めて

緊急な政治的対応」が必要だと訴えました。地圖の底層のようじて、飢餓の深刻さを測定する機関「総合的食料安全保障レベル分類（IPC）」は、ガザにおいて最も深刻なレベル5（飢餓）に直面しているのは、少なくとも全世界の4分の1の約58万人と推

計。レベル4（人道的危機）あるいはレベル5の状態にある住民は合わせて約80%としています。調査を行ったのは戦闘中断直後の11月24日から12月7日です。

一方で12月8日から2カ月間月間に亘り、ガザの全住民に亘りしてレベル3以上（急性食料不安以上）と予測していますが、「事態は急速に悪化しつつある」としています。

ガザを地域ごとにみると、12月8日からの2カ月間の時期について、飢餓（レベル5）に陥る住民は北部で30%、南部の避難民で25%と推計。ただ実際にはもつと多くなるだろうとしています。

報告書は、「飢餓のリスクがあり、強度の戦闘が行われている現在の状況と入道支援へのアクセスの制限が継続・悪化しているむどでそのリスクは日々強まつ

た」として、「戦闘の停止と人道援助を行う空間の回復」が「不可欠な第一歩だ」と述べています。過去12年間で、飢餓が言されたのは、2011年のソマリア南部と17年の南スチダーンの一部だけ。世界食糧計画（WFP）のチーフ・エコノミストアリフ・フセイン氏はロイター通

信に対し、「（ガザで）現状の戦争が続き、援助があるべき水準に達しなければ、今後6カ月に飢餓を見ることになる」と語りました。

一方で、ガザの全住民に亘りしてレベル3以上（急性食料不安以上）と予測していますが、「事態は急速に悪化しつつある」としています。

ガザを地域ごとにみると、12月8日からの2カ月間の時期について、飢餓（レベル5）に陥る住民は北部で30%、南部の避難民で25%と推計。ただ実際にはもつと多くなるだろうとしています。

報告書は、「飢餓のリスクがあり、強度の戦闘が行